

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center; margin: 0;">監査役監査基準</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">社団法人 日本監査役協会 昭和 50 年 3 月 25 日制定 昭和 57 年 7 月 20 日改正 平成 5 年 9 月 29 日改正 平成 6 年 10 月 31 日改正 平成 12 年 1 月 7 日改正 平成 14 年 6 月 13 日改正 <u>平成 16 年 2 月 12 日改正</u></p> <p style="margin: 10px 0 0 0;">監査役監査基準の改定について</p> <p style="margin: 0 0 0 20px;"><u>経緯</u></p> <p style="margin: 0 0 0 20px;"><u>監査役監査基準は昭和 50 年 3 月に制定されて以来、現在まで商法等の改正に併せ、幾度となく改正を重ね、監査役がその職務権限を遂行するための行動基準としてその役割を果たしてきた。しかし、監査役監査の理念の表明と法的に要請される基本的事項が中心であったことから、とりわけこの数年の監査役監査を取り巻く環境の著しい変化に対応し、監査役に期待される職責を果たすための行動基準として十分なものであるか見直しの必要性が指摘され、真剣に議論されるに至った。</u></p> <p style="margin: 0 0 0 20px;"><u>一方、法制面では、平成 13 年の企業統治に関する商法等改正により監</u></p>	<p style="text-align: center; margin: 0;">監査役監査基準</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">社団法人 日本監査役協会 昭和 50 年 3 月 25 日制定 昭和 57 年 7 月 20 日改正 平成 5 年 9 月 29 日改正 平成 6 年 10 月 31 日改正 平成 12 年 1 月 7 日改正 平成 14 年 6 月 13 日改正</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>査役の機能強化が図られ、平成14年の商法等改正では、大会社について新たな経営機構である委員会等設置会社制度との選択制が導入され、監査体制を含めた企業統治体制（コーポレート・ガバナンス）の質を競う時代に入ることになった。また、金融・資本市場のグローバル化に伴う関係法令・会計基準の改正、連結経営への動き、度重なる企業の不祥事に対応した取締役の責任に関する司法判断の集積なども急速に進みつつある。</p> <p>日本監査役協会では、こうした内外の環境変化に対応して、監査役に今日的に期待されている役割と責務を明確にし、その具体的な行動指針を示すべく、各委員会・研究会等の成果・意見をも織り込んで、監査役監査基準を見直し、構成も含め全面的な改定を行うこととした。</p> <p>改定の視点</p> <p>今回の監査役監査基準の改定にあたっては、従前の監査役監査基準の理念・法的要請への対応に留まらず、具体的・体系的実務指針として、内外から評価される監査実務のあり方、責任のとれる監査のあり方を明示することを目指した。さらに、監査役は、独立の立場から取締役の職務執行を監査することにより、企業不祥事を防止し、健全で持続的な成長を確保・担保することが基本責務であると認識し、良質な企業統治体制の確立と運用を監査役の基本的な監査視点とすることを明示した。</p> <p>改定の主要な視点は、以下のとおりである。</p> <p>1. 取締役会その他における意思決定に関しては、取締役の善管注意義</p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>務履行の判断基準としていわゆる経営判断の原則が判例で定着しつつあることに鑑み、十分な情報と適切な意思決定過程に基づいた合理的決定がなされているか否かという観点を、監査役監査基準に盛り込むこととした。</u></p> <p>2. <u>取締役個々の職務執行に関しては、いわゆる内部統制システムの確立が特に大規模公開会社の取締役の善管注意義務として認識されつつあることに鑑み、会社の規模・事業内容等に即した適切な内部統制システムが整備されているか否かを監査役監査基準に据えることとし、その規定化を図った。</u></p> <p>3. <u>従来の監査役監査基準においても、不祥事を未然に防止する予防監査、内部統制、会計監査人との関係等の視点は取り入れられていたが、上記2の観点も踏まえ、監査役 of 職務遂行を補助する体制の整備や内部監査部門等との連係など、監査役の監査環境の整備をより具体的な形で監査の基準として位置づけ、その重要性を一層明確にした。</u></p> <p>4. <u>監査役制度は独任制であるが、機関としての実効性向上のため、監査役会、議長、社外監査役等の機能強化などについて規定した。</u></p> <p>5. <u>企業情報開示の適正性、透明性及び信頼性を確保するため、監査役は会計監査人の独立性を監視し、取締役が財務諸表及び計算書類等を作成するために必要かつ適切な財務報告体制を構築・運用しているかを監視・検証すること等について規定した。</u></p> <p>6. <u>平成13年の企業統治に関する商法等改正において、取締役の責任減免や代表訴訟における会社の被告取締役側への訴訟参加等において監</u></p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>査役の同意が求められるなど、取締役会社間の利益相反状況における一定の役割が監査役に期待されていることを踏まえ、その規定化を図った。</u></p> <p>7. <u>監査役</u>の監査活動及び監査報告の透明性を高め、かつ、信頼性を確保するため、<u>監査の報告・開示のあり方、株主に対する説明責任について規定した。</u></p> <p><u>監査役監査の有効性確保にあたって</u></p> <p><u>監査役が本基準に基づきその職責を有効に果たすためには、取締役、とりわけ代表取締役が、監査役監査の重要性及び有用性を十分認識すること、かつ、自らの職責として監査役監査の環境整備を行うことが強く要請されていることを認識することが、極めて重要である。監査役には、コーポレート・ガバナンスの一翼を担う独立の機関として、かかる認識のより一層の浸透に努めることが、会社内はもちろんのこと社会からも強く要請されている。</u></p> <p><u>本基準の対象会社について</u></p> <p><u>本基準は、商法特例法上の大会社（みなし大会社を含む）を対象とし、主として公開会社を念頭において作成したものである。中会社・小会社の場合には、それぞれの監査環境等に留意し、本基準を参考にして監査を実施することが望ましい。</u></p>	<p><u>本基準は、いわゆる大会社・中会社を対象として作成したものであり、その他の会社の場合には、これを参考にして活用していただきたい。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定 監査役 監査基準	旧 監査役 監査基準
<p>監査役 監査基準</p>	
<p>第1章 本基準の目的</p> <p>(目的)</p> <p>第1条</p> <p>1. <u>本基準は、監査役の職責とそれを果たすうえでの心構えを明らかにし、併せて、その職責を遂行するための監査体制のあり方と、監査にあたっての基準及び行動の指針を定めるものである。</u></p> <p>2. <u>監査役は、企業規模、業種、経営上のリスクその他会社固有の監査環境にも配慮して本基準に則して行動するものとし、監査の実効性の確保に努めなければならない。</u></p> <p>第2章 監査役の職責と心構え</p> <p>(監査役の職責)</p> <p>第2条</p> <p>1. <u>監査役は、株主の負託を受けた独立の機関として取締役の職務執行を監査することにより、企業の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立する責務を負っている。</u></p> <p>2. <u>前項の責務を果たすため、監査役は、取締役会その他重要な会議へ</u></p>	<p style="text-align: center;">総 則</p> <p>(目的)</p> <p>第1条</p> <p><u>本基準は監査役の職務を執行するための行動基準を定めるものである。監査役は、その職務の重要性に鑑み、本基準に則して行動するものとする。</u></p> <p><u>本基準は、企業の一般的な監査環境を前提として定めたものであり、監査役はその会社固有の監査環境にも配慮し、監査の実効をあげるよう努めなければならない。</u></p> <p>(監査役の基本的職務)</p> <p>第2条</p> <p><u>監査役は、取締役とはその職責を異にする独立した機関であることを自覚し、会社の健全な経営と社会的信頼の向上に留意し、株主の負託と社会の要請に応えなければならない。</u></p> <p><u>監査役は、取締役の職務執行が法令・定款に違反するおそれがある</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>の出席、取締役及び使用人等から受領した報告内容の検証、会社の業務及び財産の状況に関する調査等を行い、取締役又は使用人に対する助言又は勧告等の意見の表明、取締役の行為の差止めなど、必要な措置を適時に講じなければならない。</u></p> <p>(監査役の心構え) 第3条 1. <u>監査役は、独立性の保持に努めるとともに、常に公正不偏の立場を保持し、自らの信念に基づき行動しなければならない。</u></p>	<p><u>と認めた場合には、取締役に対し必要な助言又は勧告等を行い、かつ、重大な損失の発生を未然に抑止するために、的確にその職務を遂行しなければならない。</u></p> <p>(取締役に対する提言・助言・勧告等) 第4条 <u>監査役は、会社の健全な経営に資するために、以下の場合には、取締役に対して提言・助言・勧告を積極的に行うべきである。</u></p> <p>一 <u>監査に際して、会社経営に関する内部統制について意見を持つに いたったとき</u></p> <p>二 <u>会社に著しい損害又は重大な事故等を招くおそれがある事実を認 めたとき</u></p> <p>三 <u>会社の業務に違法又は著しく不当な事実を認めたとき</u></p> <p><u>監査役は、前項に関し必要に応じて取締役会の招集又は取締役の行 為の差止めを求めなければならない。</u></p> <p>一 般 基 準</p> <p>(監査役の心構え) 第3条</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>2. <u>監査役は、監査品質の向上のため常に自己研鑽に努めなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、適正な監査視点の形成のため、経営全般の見地から経営課題についての認識を深め、経営状況の推移と企業をめぐる環境の変化を把握するよう努めなければならない。</u></p> <p>4. <u>監査役は、平素より取締役及び使用人との意思疎通を図り、情報の収集と監査環境の整備に努めなければならない。</u></p> <p>5. <u>監査役は、監査意見を形成するにあたり、よく事実を確かめ、必要に応じて外部専門家の意見を徴し、判断の合理的根拠を求め、その適正化に努めなければならない。</u></p> <p>6. <u>監査役は、その職務の遂行上知り得た情報の秘密保持に十分注意しなければならない。</u></p> <p>7. <u>監査役は、健全で持続的な成長を可能とする良質な企業統治体制の確立と運用のために、監査役監査の環境整備が重要かつ必須であることを、代表取締役を含む取締役に理解し認識させるよう努めなければならない。</u></p> <p>第3章 監査役及び監査役会</p>	<p>__ <u>監査役は、適正な監査視点の形成のため、常に自己研鑽に励むとともに経営全般の見地から経営課題についての認識を深め、過去・現在・将来にわたる経営状況の推移と企業をめぐる環境の変化を把握するよう努めなければならない。</u></p> <p>__ <u>監査役は、常に会社経営に関する内部統制の状況及びその有効性に留意しなければならない。</u></p> <p>__ <u>監査役は、平素より取締役及び使用人との意思疎通を計り、情報の収集に努め、業務の実態を把握していなければならない。</u></p> <p>__ <u>監査役は、監査意見を形成するにあたり、よく事実を確かめ、判断の合理的根拠を求め、その適正化に努めなければならない。</u></p> <p>__ <u>監査役は、その職務を行うにあたり、常に公正不偏の立場を保ち、かつ、企業の秘密保持にも十分注意をしなければならない。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>(常勤監査役)</p> <p>第4条</p> <p>1. 監査役は、常勤の監査役を互選しなければならない。</p> <p>2. 常勤監査役は、常勤者としての特性を踏まえ、監査環境の整備及び社内の情報の収集に積極的に努め、かつ、内部統制システムの構築状況及び運用状況を日常的に監視し検証する。</p> <p>3. 常勤監査役は、その職務の遂行上知り得た情報を、他の監査役と共有するよう努めなければならない。</p> <p>(社外監査役)</p> <p>第5条</p> <p>1. 社外監査役は、監査体制の中立性及び独立性を一層高めるために法律上その選任が義務付けられていることを自覚しなければならない。</p> <p>2. 社外監査役は、その独立性、人的影響力等を踏まえ、中立の立場から客観的に監査意見を表明することが特に期待されていることを認識し、代表取締役及び取締役会に対して忌憚のない質問をし又は意見を述べなければならない。</p> <p>3. 社外監査役も、積極的に監査に必要な情報の入手に心掛け、得られた情報を他の監査役と共有することに努めるとともに、他の監査役と協力して監査環境の整備に努めなければならない。</p>	<p>(常勤の監査役の互選)</p> <p>第7条</p> <p>監査役は、<u>法律に定めがある場合には</u>、常勤の監査役を互選しなければならない。</p> <p><u>法律上常勤の監査役を義務づけられていない会社でも、常勤の監査役がいることが望ましい。</u></p> <p>(情報の共有)</p> <p>第8条</p> <p><u>常勤の監査役は、職務の遂行上知り得た重要な情報を</u>、他の監査役と共有するよう努めなければならない。</p> <p><u>常勤でない監査役も、積極的に監査に必要な情報の入手に心掛け、その共有に努めなければならない。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定 監査役 監査基準	旧 監査役 監査基準
<p>(監査役会の機能)</p> <p>第6条</p> <p>1. <u>監査役会は、監査役全員をもって組織する。</u></p> <p>2. <u>各監査役は、監査役会が監査に関する意見を形成するための唯一の協議機関かつ決議機関であることに鑑み、職務の遂行の状況を監査役会に報告するとともに、監査役会を活用して監査の実効性の確保に努めなければならない。ただし、監査役会の決議が各監査役の権限の行使を妨げるものではない。</u></p> <p>3. <u>監査役会は、必要に応じて取締役及び取締役会に対し監査役会の意見を表明する。</u></p> <p>4. <u>監査役会は、法律に定める事項のほか、取締役が監査役会に報告すべき事項を取締役と協議して定め、その報告を受けるものとする。</u></p> <p>(監査役会の運営)</p> <p>第7条</p> <p>1. <u>監査役会は定期的開催し、取締役会の開催日時、各監査役の出席可能性等にも配慮し、あらかじめ年間の開催日時を定めておくことが望ましい。ただし、必要あるときは随時開催するものとする。</u></p> <p>2. <u>監査役会は、監査役会の議長を互選により定める。監査役会の議長は、監査役会を招集し運営するほか、監査役会の委嘱を受けた職務を遂行する。ただし、各監査役の権限の行使を妨げるものではない。</u></p>	<p>(監査役会)</p> <p>第6条</p> <p><u>法律に定めがある場合には、監査役全員をもって監査役会を組織する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>3. <u>監査役会は、監査に関する方針等を定め、各監査役の報告に基づき審議をし、監査意見を形成する。</u></p> <p>4. <u>監査役会の決議を要する事項については、十分な資料に基づき審議のうえ、決定しなければならない。</u></p> <p>5. <u>監査役は、監査役会議事録に議事の経過の要領及び結果が適切に記載されているかを確かめ、出席した監査役は、これに署名又は記名捺印しなければならない。</u></p> <p>(監査役選任手続への関与)</p> <p>第8条</p> <p>1. <u>監査役会は、取締役が株主総会に提出する監査役の選任議案について、同意の可否を審議しなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役会は、監査役候補者、監査役選任議案を決定する手続、補欠監査役の予選の要否等について、取締役との間であらかじめ協議の機会をもつことが望ましい。</u></p> <p>3. <u>監査役会は、必要あると認めたときは、取締役に対し、監査役の選任を株主総会の議題とすることを請求し、又は株主総会に提出する監査役候補者を提案しなければならない。</u></p> <p>4. <u>監査役は、監査役の独立性に留意し、監査役の選任、解任、辞任、又は不再任について意見をもつに至ったときは、株主総会において意見を表明しなければならない。</u></p>	<p>__ <u>監査役会は、監査に関する方針等を定め、監査役の報告に基づき協議をし、監査意見を形成する。</u></p> <p>__ <u>監査役会の決議を要する事項については、十分な資料に基づき審議・決定しなければならない。</u></p> <p>__ <u>監査役会の運営に関しては、別に定める監査役会規則による。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>(監査役候補者の選定基準)</u></p> <p>第9条</p> <p>1. <u>監査役会は、監査役の常勤・非常勤又は社内・社外の別及びその員数、現任監査役の任期、専門知識を有する者の有無、欠員が生じた場合の対応等を考慮し、監査役候補者の選定に関して一定の方針を定めるものとする。</u></p> <p>2. <u>監査役候補者の選定に際しては、監査役会は、任期を全うすることが可能か、業務執行者からの独立性が確保できるか等を勘案して、監査役としての適格性を慎重に検討しなければならない。なお、監査役のうち最低1名は、経理又は財務に関して十分な知見を有する者であることが望ましい。</u></p> <p>3. <u>社外監査役候補者の選定に際しては、監査役会は、会社との関係、代表取締役その他の取締役や主要な使用人との関係等を勘案して独立性に問題がないことを確認するとともに、取締役会及び監査役会等への出席可能性等を検討するものとする。</u></p> <p><u>(監査職務を補助する体制)</u></p> <p>第10条</p> <p>1. <u>監査役は、監査の実効性を高め、かつ、監査職務を円滑に遂行するため、監査役の職務遂行を補助する体制の確保に努めなければならない。</u></p>	<p><u>(監査役・監査役会の事務局)</u></p> <p>第13条</p> <p><u>監査役の業務補助又は監査役会の事務局は、監査役スタッフがこれにあたる。</u></p> <p><u>監査役は、監査役スタッフの人事に関して取締役と意見交換を行う</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>2. <u>前項の体制確保のため、監査役は、必要あると認めるときは、取締役との間で協議の機会をもたなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役及び監査役会の事務局は、専任の監査役スタッフがあたることが望ましい。</u></p> <p>4. <u>監査役は、監査役スタッフの業務執行者からの独立性の確保に留意する。</u></p> <p>(監査役の報酬)</p> <p>第11条</p> <p>1. <u>各監査役が受けるべき報酬の額について定款の定め又は株主総会の決議がない場合には、監査役は、常勤・非常勤の別、監査業務の分担の状況、取締役の報酬の内容及び水準等を考慮し、監査役の協議をもって各監査役が受ける報酬の額を定めなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役は、監査役の報酬について意見をもつに至ったときは、必要に応じて取締役会又は株主総会において意見を述べる。</u></p> <p>(監査費用)</p> <p>第12条</p> <p>1. <u>監査役会は、職務遂行上必要と認める費用について、あらかじめ予算を計上しておくことが望ましい。ただし、緊急又は臨時に支出した費用については、事後、会社に償還を請求することができる。</u></p> <p>2. <u>監査費用の支出にあたっては、監査役は、その効率性及び適正性に</u></p>	<p><u>ものとする。</u></p> <p>(監査費用)</p> <p>第9条</p> <p><u>監査役会（法律に定めがない場合は監査役、以下「監査役」と表記する）は、職務執行上必要と認める費用について、あらかじめ予算を会社に提示する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>留意しなければならない。</u></p> <p>第4章 業務監査</p> <p>(取締役の職務執行の監査)</p> <p>第13条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役の職務執行を監査する。</u></p> <p>2. <u>前項の職責を果たすため、監査役は、次の職務を行う。</u></p> <p><u>監査役は、取締役会決議その他における取締役の意思決定の状況及び取締役会の監督義務の履行状況を監視し検証する。</u></p> <p><u>監査役は、取締役が、内部統制システムを適切に構築し運用しているかを監視し検証する。</u></p> <p><u>監査役は、取締役が会社の目的外の行為その他法令もしくは定款に違反する行為をし、又はするおそれがあると認めるとき、会社に著しい損害又は重大な事故等を招くおそれがある事実を認めるとき、会社の業務に著しく不当な事実を認めるときは、取締役に対して助言又は勧告を行うなど、必要な措置を講じる。</u></p> <p><u>監査役又は監査役会は、取締役から会社に著しい損害が発生するおそれがある旨の報告を受けた場合には、必要な調査を行い、取締役に対して助言又は勧告を行うなど、状況に応じ適切な措置を講じる。</u></p> <p>3. 監査役は、前項に定める事項に関し、必要あると認めるときは、取</p>	<p><u>実施基準</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>締役会の招集又は取締役の行為の差止めを求めなければならない。</u></p> <p>(取締役会等の意思決定の監査)</p> <p>第14条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役会決議その他において行われる取締役の意思決定に関して、善管注意義務、忠実義務等の法的義務の履行状況を、以下の観点から監視し検証しなければならない。</u></p> <p><u>事実認識に重要かつ不注意な誤りがないこと</u></p> <p><u>意思決定過程が合理的であること</u></p> <p><u>意思決定内容が法令又は定款に違反していないこと</u></p> <p><u>意思決定内容が通常の企業経営者として明らかに不合理ではないこと</u></p> <p><u>意思決定が会社の利益を第一に考えてなされていること</u></p> <p>2. <u>前項に関して必要であると認めるときは、監査役は、取締役に對し助言もしくは勧告をし、又は差止めの請求を行わなければならない。</u></p> <p>(内部統制システムの整備状況の監査)</p> <p>第15条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役が次の諸事項を含む内部統制システムを会社の規模及び事業内容等に照らして適切に構築し運用しているかを監視し検証しなければならない。</u></p> <p><u>取締役及び使用人の職務執行が法令又は定款等に違反しないため</u></p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;"><u>の法令等遵守体制</u></p> <p style="text-align: center;"><u>会社の重大な損失の発生を未然に防止するためのリスク管理体制</u></p> <p style="text-align: center;"><u>財務情報その他企業情報を適正かつ適時に開示するための体制</u></p> <p>2. <u>監査役は、内部統制システムの構築状況及び運用状況についての報告を取締役から定期的に求めなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、前項に定める報告のほか、内部監査部門等との関係及び会計監査人からの報告等を通じて、内部統制システムの状況を監視し検証する。</u></p> <p>4. <u>監査役は、内部統制システムに関する監査の結果について、適宜取締役会に報告し、必要であると認めるときは、取締役に対し内部統制システムの改善を助言又は勧告しなければならない。</u></p> <p>(競業取引等の監査)</p> <p>第16条</p> <p>1. <u>監査役は、次の取引等について、取締役の義務に違反する事実がないかを監視し検証しなければならない。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>競業取引及び利益相反取引</u></p> <p style="text-align: center;"><u>会社がする無償の財産上の利益供与（反対給付が著しく少ない財産上の利益供与を含む）</u></p>	<p>(他の監査との関係)</p> <p>第5条</p> <p><u>監査役は、会計監査人、内部監査部門又は子会社監査役との関係を密にし、的確な監査を実施するよう努めなければならない。</u></p> <p>(内部統制上の諸制度に関する意見)</p> <p>第25条</p> <p><u>監査役は、会社の内部統制上の組織・規程・手続等の諸制度及び運用について意見をもつにいたった場合には、その意見を取締役に述べる。</u></p> <p><u>監査役は、前項の諸制度に変更があった場合には報告するよう取締役を求める。</u></p> <p>(競業取引等についての調査)</p> <p>第20条</p> <p><u>競業取引又は利益相反取引並びに自己株式の取得及び処分等について、調査の結果取締役の義務に違反するような事実を発見したときは、監査役は、これを是正するよう取締役に対し勧告する。</u></p> <p><u>会社がする無償の財産上の利益供与又は子会社若しくは株主との通例的でない取引について、取締役の義務に違反するような事実を発見</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;"><u>子会社もしくは株主との通例でない取引</u> <u>自己株式の取得及び処分又は株式失効の手続</u></p> <p>2. <u>前項各号に定める取引等について、社内部門等からの報告又は監査役</u> <u>の監査の結果、取締役の義務に違反し、又はするおそれがある事実</u> <u>を認めるときは、監査役は、必要な措置を講じなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、第1項各号に掲げる事項以外の重要又は異常な取引等</u> <u>についても、法令又は定款に違反する事実がないかに留意し、併せて重</u> <u>大な損失の発生を未然に防止するよう取締役に対し助言又は勧告しな</u> <u>ければならない。</u></p> <p>第5章 会計監査</p> <p>(会計監査人の独立性の監視等)</p> <p>第17条</p> <p>1. <u>監査役は、会計監査の適正性及び信頼性を確保するため、会計監査</u> <u>人が独立の立場を保持し、職業的専門家として適切な監査を実施して</u> <u>いるかを監視し検証する。</u></p> <p>2. <u>監査役は、会計監査人の再任の適否について、会計監査人の職務遂</u> <u>行の状況等を考慮し、每期検討する。</u></p> <p>3. <u>監査役会は、取締役に対し会計監査人の選任、解任もしくは不再任</u> <u>を株主総会の議題とすることを請求し、又は会計監査人の選任に関す</u> <u>る議案を株主総会へ提出することを請求することができる。</u></p>	<p><u>したときは、監査役は、これを是正するよう取締役に対し勧告する。</u></p> <p>(その他の取引の調査)</p> <p>第21条</p> <p><u>監査役は、前条以外の重要又は異常な取引等について、法令・定款</u> <u>に違反する事実がないかに留意し、併せて重大な損失の発生を未然に</u> <u>防止するよう取締役に対し助言する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>4. <u>監査役は、会社が会計監査人と監査契約を締結する場合には、会計監査人に対する監査報酬及び非監査報酬の額、監査担当者その他監査契約の内容が適切であるかについて、契約毎に検証する。</u></p> <p>(財務報告体制の監査)</p> <p>第18条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役が財務諸表及び計算書類等の適正な作成及び報告のために、必要かつ適切な財務報告体制を構築し運用しているかを監視し検証しなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役は、会社が財務情報を開示するにあたり、会計監査人のほか担当取締役又は使用人に対しその重要事項について説明を求めるとともに、開示される情報に重要な誤りがなく、かつ、内容が誤解を生ぜしめるものでないかを検証しなければならない。</u></p> <p>(会計方針・会計処理等の監査)</p> <p>第19条</p> <p>1. <u>監査役は、会計方針、会計処理の方法等が、会社財産の状況、計算書類等に及ぼす影響、適用すべき会計基準及び公正な会計慣行等に照らして適正であるかについて、会計監査人の意見を徴して検証しなければならない。また、必要であると認めるときは、取締役に対し助言又は勧告をしなければならない。</u></p> <p>2. <u>会社が会計方針、会計処理の方法及び計算書類等の記載方法を変更</u></p>	<p>(会計方針等に関する意見)</p> <p>第26条</p> <p>__ <u>会社が会計方針、会計処理の方法及び計算書類等の記載方法を変更</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>する場合には、<u>監査役及び監査役会は、あらかじめ変更の理由及びその影響について報告するよう取締役に求め、その変更の当否についての会計監査人の意見を徴し、その相当性について判断しなければならない。</u></p> <p>(計算書類等の監査) 第20条</p> <p>1. 監査役会は、取締役から貸借対照表、損益計算書、営業報告書、利益処分案又は損失処理案及び附属明細書を受領する。監査役は、これらの書類を監査し、<u>その方法と結果を監査役会に報告する。</u></p> <p>2. 監査役会は、前項の監査結果の報告を受けた後、審議を行い、<u>監査役会としての監査意見を形成する。</u></p> <p>3. <u>第1項の書類等の受領者は、常勤の監査役とすることができる。</u></p> <p>(会計監査人からの報告の監査) 第21条</p> <p>1. 監査役会は、会計監査人から監査報告書及び監査に関する資料を受領する。監査役は、<u>会計監査上の重要事項について説明を求め、会計監査人の監査報告書の調査を行う。</u></p> <p>2. <u>前項において、会計監査人の監査の方法又は結果を相当でないと認めるときは、監査役は、自ら監査を行い、相当でないと認めたと旨及び理由並びに自ら行った監査の方法の概要又は結果を監査役会に報告す</u></p>	<p>する場合には、<u>監査役は、あらかじめ変更の理由及びその影響について報告するよう取締役に求める。</u></p> <p><u>監査役は、会計方針、会計処理の方法等について問題があれば、取締役に意見を述べる。</u></p> <p>(計算書類等の監査) 第27条</p> <p>監査役会（<u>監査役</u>）は、取締役から貸借対照表、損益計算書、営業報告書、利益処分案又は損失処理案及び附属明細書を受領する。監査役は、これらの書類の<u>監査事項を監査し、また、監査役会は、監査役の監査結果の報告を受け、これを協議する。</u></p> <p><u>前項の書類等の受領者は、常勤の監査役とすることができる。</u></p> <p>(会計監査人からの報告の監査) 第28条</p> <p>監査役会は、会計監査人から監査報告書及び監査に関する資料を受領する。監査役は、その重要事項について説明を求め、<u>監査役会において、その相当性について検討・協議する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>る。</p> <p>3. <u>監査役会は、第1項又は第2項の監査役の監査結果の報告を受け、 会計監査人の監査の方法及び結果の相当性について審議する。</u></p> <p>4. <u>第1項の書類等の受領者は、常勤の監査役とすることができる。</u></p> <p>第6章 監査の方法等</p> <p>(監査計画及び業務の分担)</p> <p>第22条</p> <p>1. <u>監査役会は、内部統制システムの整備状況にも留意のうえ、重要性、 適時性その他必要な要素を考慮して監査方針をたて、監査対象、監査 の方法及び実施時期を適切に選定し、監査計画を作成する。この場合、 監査上の重要課題については、重点監査項目として設定するものとす る。</u></p> <p>2. <u>監査役会は、効率的な監査を実施するため、適宜、会計監査人及び 内部監査部門等と協議又は意見交換を行い、監査計画を作成する。</u></p> <p>3. <u>監査役会は、組織的かつ効率的に監査を実施するため、監査業務の 分担を定める。</u></p> <p>4. <u>監査役会は、監査方針及び監査計画を代表取締役及び取締役会に説 明する。</u></p> <p>5. <u>監査方針及び監査計画は、必要に応じ適宜修正する。</u></p>	<p>前項の書類等の受領者は、常勤の監査役とすることができる。</p> <p>監査の方法等</p> <p>(監査計画及び業務の分担)</p> <p>第14条</p> <p>監査役会(監査役)は、重要性、適時性その他必要な要素を考慮し て監査方針をたて、<u>適切に調査対象及び方法を選定し、監査計画を 作成する。</u></p> <p>監査役会(監査役)は、組織的かつ効率的に監査を実施するため、 監査業務の分担を定める。</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;">(取締役会への出席・意見陳述)</p> <p>第23条</p> <p>1. 監査役は、取締役会に出席し、<u>かつ、必要あると認めるときは、意見を述べなければならない。</u></p> <p>2. 監査役は、取締役が会社の目的外の行為<u>その他法令もしくは定款に違反する行為をし、又はするおそれがあると認められた場合には、これを取締役会に報告しなければならない。</u></p> <p>3. 監査役は、取締役会に前項の報告をするため、<u>必要あると認めるときは、取締役会の招集を請求しなければならない。また、請求後、一定期間内に招集の通知が発せられない場合は、自らが招集することができる。</u></p> <p>4. 監査役は、取締役会議事録の記載内容を確認、<u>出席した監査役は、署名又は記名捺印しなければならない。</u></p> <p style="text-align: center;">(重要財産委員会への出席・意見陳述)</p> <p>第24条</p> <p>1. <u>重要財産委員会が設置されているときには、監査役は、重要財産委員会に出席し、かつ、必要あると認めるときは、意見を述べなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役は、重要財産委員会議事録の記載内容を確認、出席した監査役は、署名又は記名捺印しなければならない。</u></p>	<p style="text-align: center;">(取締役会への出席・意見陳述義務)</p> <p>第15条</p> <p>監査役は、取締役会に出席し、必要あると認めるときは、意見を述べなければならない。<u>また、必要に応じ、報告を行う。</u></p> <p>監査役は、取締役が会社の目的外の行為<u>その他法令・定款に違反する行為をし、又はするおそれがあると認められた場合には、これを取締役会に報告する。</u></p> <p>監査役は、取締役会に前項の報告をするため、<u>必要な場合には取締役会の招集を請求する。</u></p> <p>監査役は、取締役会議事録の記載<u>又は記録内容を確認、記名押印又は電子署名する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;">(重要な会議等への出席)</p> <p>第25条</p> <p>1. 監査役は、取締役会又は<u>重要財産委員会</u>のほか、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、<u>経営会議、常務会その他の重要な会議又は委員会</u>に出席し、必要あると認めるときは、<u>意見を述べなければならない。</u></p> <p>2. 前項の会議に出席しない場合には、監査役は、<u>付議事項</u>についての説明を受け、関係資料を閲覧する。</p> <p style="text-align: center;">(代表取締役との定期的会合)</p> <p>第26条</p> <p><u>監査役及び監査役会は、代表取締役と定期的に会合をもち、代表取締役の経営方針を確かめるとともに、会社が対処すべき課題、会社を取り巻くリスクのほか、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、代表取締役との相互認識と信頼関係を深めるよう努めるものとする。</u></p> <p style="text-align: center;">(監査役監査の環境整備)</p> <p>第27条</p> <p><u>監査役及び監査役会は、代表取締役等に対して、次の監査役監査の環境整備を含む諸事項について要請を行い、必要に応じて確認をとるものとする。</u></p>	<p style="text-align: center;">(重要な会議等への出席)</p> <p>第16条</p> <p>監査役は、取締役会のほか、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、<u>重要な会議</u>に出席する。</p> <p>前項の会議に出席しない場合には、監査役は、<u>審議事項</u>についての説明を受け、関係資料を閲覧する。</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>監査役監査の重要性と有用性に対する代表取締役その他の取締役の認識及び理解</u></p> <p><u>監査役職務遂行を補助する体制の整備に関する事項</u></p> <p><u>取締役及び使用人が監査役に対して報告すべき事項</u></p> <p><u>内部監査部門等との関係に関する事項</u></p> <p><u>内部統制システムの整備に関する事項</u></p> <p><u>その他、監査役の円滑な監査活動の保障に関する事項</u></p> <p>(取締役及び使用人からの報告受領)</p> <p>第28条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役が会社に著しい損害を及ぼすおそれがある事実を発見したときには、これを直ちに監査役会に報告することが自らの義務であることを強く認識するよう、取締役に対し求めなければならない。</u></p> <p>2. <u>前項に定める事項のほか、あらかじめ取締役と協議して定めた監査役会に対する報告事項について実効的かつ機動的な報告がなされるよう、監査役は、社内規則の制定その他の社内体制の整備を代表取締役に求めなければならない。</u></p> <p>3. <u>会社に内部通報システムがおかれているときには、監査役は、その情報の受領先に加わるなど、その内部通報システムが有効に機能しているかを監視し検証するとともに、提供される情報を監査職務に活用するよう努める。</u></p>	<p>(取締役の報告義務に対する措置)</p> <p>第18条</p> <p><u>監査役会（監査役）は、取締役から会社に著しい損害が発生するおそれがある旨の報告を受けた場合には、その調査の要否を協議する。</u></p> <p><u>監査役は、前項の調査を行い、必要な場合には助言又は勧告を行うほか、状況に応じ適切な措置をとる。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>(内部監査部門等との関係)</p> <p>第29条</p> <p>1. <u>監査役は、会社の業務及び財産の状況の調査その他の監査職務の遂行にあたり、内部監査部門等と緊密な関係を保ち、効率的な監査を実施するよう努めなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役は、内部監査部門等に対して、内部統制システムにかかわる状況とその監査結果の報告を求める。</u></p> <p>3. <u>監査役は、必要に応じ、内部監査部門等に対して調査を求めることができる。</u></p> <p>(文書・情報管理の監査)</p> <p>第30条</p> <p>1. <u>監査役は、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な書類を閲覧し、必要あると認めたときは、取締役又は使用人に対しその説明を求め、又は意見を述べなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役は、所定の文書・規程類、重要な記録その他の重要な情報が適切に整備され、かつ、保存及び管理されているかを調査し、必要あると認めたときは、取締役又は使用人に対し説明を求め、又は意見を述べなければならない。</u></p>	<p>(内部監査部門との関係)</p> <p>第12条</p> <p><u>監査役は、内部監査部門と緊密な関係を保ち、内部監査の結果を活用するよう努める。</u></p> <p><u>監査役会(監査役)は、監査上の必要性に従い、内部監査部門からの報告を求め、また、特定事項の調査を依頼する。</u></p> <p>(文書の閲覧)</p> <p>第17条</p> <p><u>監査役は、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役又は使用人に対しその説明を求める。</u></p> <p>(情報管理の調査)</p> <p>第23条</p> <p><u>監査役は、所定の文書・規程類、重要な記録及びその他の重要な情報の整備・保存等その管理状況を調査し、必要に応じて取締役又は使用人に対し説明を求める。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;">(企業情報開示体制の監査)</p> <p>第31条</p> <p>1. 監査役は、開示される企業情報の透明性と信頼性を確保するために、取締役が適切な情報作成及び情報開示の体制を構築し、明確な情報開示基準を制定し運用しているかを監視し検証しなければならない。</p> <p>2. 監査役は、継続企業的前提に係る事象又は状況、重大な事故又は災害、重大な係争事件など、企業の健全性に重大な影響のある事項について、取締役が情報開示を適時適切な方法により、かつ、十分に行っているかを監視し検証しなければならない。</p> <p style="text-align: center;">(取締役及び使用人に対する調査等)</p> <p>第32条</p> <p>1. 監査役は、取締役及び使用人に対し営業の報告を求め、又は会社の業務及び財産の状況を調査する。</p> <p>2. 監査役は、必要に応じ、ヒアリング、往査その他の方法により調査を実施し、十分に事実を確かめ、監査意見を形成するうえでの合理的根拠を求めなければならない。</p> <p style="text-align: center;">(会社財産の調査)</p> <p>第33条</p> <p>1. 監査役は、重要な会社財産の取得、保有及び処分の状況について調査しなければならない。</p>	<p style="text-align: center;">(実地調査)</p> <p>第22条</p> <p>監査役は、本支店・工場・事業所等を調査し、その業務が適法かつ適正に行われているかを確かめ、併せて会社の業務全般の実情を把握する。</p> <p>監査役は、前項の調査の結果、必要な場合には取締役又は使用人に対し助言又は勧告を行う。</p> <p style="text-align: center;">(財産の調査)</p> <p>第19条</p> <p>監査役は、重要な会社財産の取得・処分及び管理について調査し、法令・定款に違反する事実がないかに留意し、併せて重大な損失の発</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>2. <u>監査役は、取締役が会社の資産及び負債を適切に管理しているかを調査しなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、会社財産の実質価値の把握に努めるよう心掛ける。</u></p> <p>(子会社の調査等) 第34条</p> <p>1. <u>子会社、連結子会社及び重要な関連会社（本条において「子会社等」という）を有する会社の監査役は、連結経営の視点を踏まえ、監査職務を遂行する。</u></p> <p>2. <u>前項の監査役は、取締役の職務の執行を監査するため必要があるとき又は連結計算書類に関する職務を行うため必要があるときは、子会社等に対し営業の報告を求め、又はその業務及び財産の状況を調査しなければならない。</u></p> <p>3. <u>第1項の監査役は、子会社等に対して営業の報告請求又は調査を行ったときは、その方法及び結果を監査報告書に記載しなければならない。</u></p> <p>4. <u>第1項の監査役は、内部統制システムが企業集団内においても適切に整備されているかに留意して監査職務を遂行するとともに、企業集団全体の監査環境の整備にも努める。</u></p> <p>5. <u>第1項の監査役は、子会社等の監査役等と緊密な関係を保ち、効果的な監査を実施するよう努めなければならない。</u></p>	<p><u>生を未然に防止するよう取締役に対し助言する。</u></p> <p>__ 監査役は、会社財産の実質価値の把握に努めるよう心掛ける。</p> <p>(子会社等の調査) 第24条</p> <p>__ 監査役は、取締役の職務の執行を監査するため必要があるときは、子会社及び重要な関連会社に対し営業の報告を求め、又はその業務及び財産の状況を調査する。</p> <p>__ 監査役は、子会社に対して営業の報告請求又は調査を行ったときは、その方法及び結果を監査報告書に記載又は記録する。</p> <p>(子会社監査役との関係) 第12条の2</p> <p>__ 監査役は、子会社監査役と緊密な関係を保ち、効果的な監査を実施するよう努める。</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;">(会計監査人との関係)</p> <p>第35条</p> <p>1. <u>監査役及び監査役会は、会計監査人と定期的に会合をもつなど、緊密な関係を保ち、積極的に意見及び情報の交換を行い、効率的な監査を実施するよう努めなければならない。</u></p> <p>2. <u>監査役及び監査役会は、会計監査人から監査計画の概要を受領し、会計監査人が把握した内部統制システムの状況、リスクの評価及び監査重点項目等について説明を受け、意見交換を行わなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、必要に応じて会計監査人の往査及び監査講評に立ち会うほか、会計監査人に対し監査の実施経過について、適宜報告を求めることができる。</u></p> <p>4. <u>会計監査人から取締役の職務遂行に関して不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実がある旨の報告を監査役会において受けた場合には、審議のうえ、監査役は、必要な調査を行い、取締役に対して助言又は勧告を行うなど、必要な措置を講じなければならない。</u></p> <p>第7章 株主代表訴訟への対応等</p> <p style="text-align: center;">(取締役会社間の訴えの代表)</p> <p>第36条</p> <p><u>監査役は、会社が取締役に対し又は取締役が会社に対し訴えを提起</u></p>	<p style="text-align: center;">(会計監査人との関係)</p> <p>第10条</p> <p><u>監査役は、会計監査人と緊密な関係を保ち、積極的に情報交換を行い、効率的な監査を実施するよう努める。</u></p> <p><u>監査役会は、会計監査人と定例会合をもち、報告を受け、意見交換を行う。</u></p> <p><u>会計監査人から取締役の職務遂行に関して不正の行為又は法令・定款に違反する重大な事実がある旨の報告を監査役会において受けた場合には、協議のうえ、監査役は、必要な調査を行い、助言又は勧告等の必要な措置を講ずるものとする。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>する場合には、会社を代表しなければならない。</u></p> <p>(取締役の責任免除に関する同意)</p> <p>第37条</p> <p>1. <u>監査役会が行う次の同意は、監査役全員の合意により決議しなければならない。</u></p> <p><u>取締役会が株主総会に提案しようとしている取締役の責任免除にかかる議案に対する同意</u></p> <p><u>取締役会が株主総会に提案しようとしている取締役会決議によって取締役の責任免除をすることができる旨の定款変更にかかる議案に対する同意</u></p> <p><u>取締役が定款の規定に基づき取締役会に提案しようとしている取締役の責任免除にかかる議案に対する同意</u></p> <p><u>取締役会が株主総会に提案しようとしている社外取締役との間で責任免除の契約をすることができる旨の定款変更にかかる議案に対する同意</u></p> <p>2. <u>前項各号の同意を行うにあたり、監査役は、定款変更にかかる議案に対する同意については定款変更の当否や提案理由の適切さ等を、責任免除にかかる議案に対する同意については免除の理由、監査役が行った調査結果、当該事案について判決が出されているときにはその内容等を十分に吟味し、かつ、必要に応じて外部専門家の意見も徴して判断を行うものとする。</u></p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>3. <u>第1項各号の同意の当否判断のために行った監査役の調査及び審議の過程と結果については、監査役は、記録を作成し保管するものとする。</u></p> <p>(株主代表訴訟の提訴請求の受領)</p> <p>第38条</p> <p>1. <u>監査役は、取締役に対しその責任を追及する訴えを提起するよう株主から請求を受けた場合には、速やかに他の監査役に通知するとともに、監査役会を招集してその対応を十分に審議のうえ、提訴の当否について判断しなければならない。</u></p> <p>2. <u>前項の提訴の当否判断にあたって、監査役は、被提訴取締役のほか関係部署から状況の報告を求め、又は意見を徴するとともに、関係資料を収集し、外部専門家から意見を徴するなど、必要な調査を適時に実施しなければならない。</u></p> <p>3. <u>監査役は、第1項の判断結果について、取締役会及び被提訴取締役に対して通知する。なお、当該判断結果の提訴請求株主への通知の当否及び通知する際の内容については、外部専門家の意見を徴したうえ、監査役会における審議を経て判断する。</u></p> <p>4. <u>監査役は、提訴の当否判断のために行った調査及び審議の過程と結果について、記録を作成し保管するものとする。</u></p> <p>(補助参加の同意)</p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定 監査役 監査基準	旧 監査役 監査基準
<p>第 39 条</p> <p>1. <u>株主代表訴訟において会社が被告取締役側へ補助参加することに対する監査役会の同意は、監査役全員の合意による決議を必要とする。</u></p> <p>2. <u>前項の補助参加への同意の当否判断にあたって、監査役会は、代表取締役及び被提訴取締役のほか関係部署から状況の報告を求め、又は意見を徴し、必要に応じて外部専門家からも意見を徴するものとする。監査役は、補助参加への同意の当否判断の過程と結果について、記録を作成し保管するものとする。</u></p> <p>(訴訟上の和解)</p> <p>第 40 条</p> <p>1. <u>監査役は、株主代表訴訟について原告株主と被告取締役との間で訴訟上の和解を行う旨の通知及び催告が裁判所からなされた場合には、速やかに監査役会等においてその対応を十分に審議し、和解に異議を述べるかどうかを判断しなければならない。</u></p> <p>2. <u>前項の訴訟上の和解の当否判断にあたって、監査役は、代表取締役及び被提訴取締役のほか関係部署から状況の報告を求め、又は意見を徴し、必要に応じて外部専門家からも意見を徴するものとする。監査役は、訴訟上の和解の当否判断の過程と結果について、記録を作成し保管するものとする。</u></p> <p>第 8 章 監査の報告</p>	<p>監査の報告</p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p><u>(監査内容等の報告・説明)</u></p> <p>第41条</p> <p><u>監査役は、監査活動及び監査結果に対する透明性と信頼性を確保するため、自らの職務遂行の状況や監査の内容を必要に応じて説明することが監査役の重要な責務であることを、自覚しなければならない。</u></p> <p><u>(監査調書の作成)</u></p> <p>第42条</p> <p><u>監査役は、監査調書を作成しておかなければならない。当該監査調書には、監査役が実施した監査方法及び監査結果、並びにその監査意見の形成に至った過程及び理由等を記録する。</u></p> <p><u>(代表取締役及び取締役会への報告)</u></p> <p>第43条</p> <p>1. <u>監査役及び監査役会は、監査の実施状況とその結果について、定期的に代表取締役及び取締役会に報告する。</u></p> <p>2. <u>監査役及び監査役会は、その期の重点監査項目に関する監査及び特別に実施した調査等の経過及び結果を代表取締役及び取締役会に報告し、必要あると認めたときは、助言又は勧告を行うほか、状況に応じた適切な措置を講じなければならない。</u></p>	

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p style="text-align: center;">(株主総会への報告・説明等)</p> <p>第45条</p> <p>1. <u>監査役は、株主総会に提出される議案及び書類について法令もしくは定款に違反し又は著しく不当な事項の有無を調査し、当該事実があると認められた場合には、株主総会において意見を報告しなければならない。また、監査役は、監査役の説明責任を果たす観点から、必要に応じて株主総会において自らの意見を述べるものとする。</u></p> <p>2. <u>監査役は、株主総会において株主が質問した事項については、議長の議事運営に従い説明する。</u></p> <p>3. <u>監査役は、株主総会議事録に議事の要領及びその結果が正確に記載されているかを確かめる。</u></p>	<p style="text-align: center;">(株主総会への報告)</p> <p>第30条</p> <p><u>監査役は、株主総会に提出される議案及び書類その他のものについて違法又は著しく不当な事項の有無を調査し、必要な場合には株主総会に報告する。</u></p> <p style="text-align: center;">(株主総会における説明義務等)</p> <p>第31条</p> <p><u>監査役は、株主総会において株主が質問した事項については、議長の議事運営に従い説明する。</u></p> <p><u>監査役は、株主総会議事録に議事の要領及びその結果が正確に記載されているかを確かめる。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>監査の連係</u></p> <p style="text-align: center;">(会計監査人の選任を要しない会社)</p> <p>第11条</p> <p><u>会計監査人の選任を要しない会社の監査役は、次の事項についてとくに留意のうえ、会計監査を行う。</u></p> <p>一 <u>取締役に対して定例的に会計に関する資料及び報告を求め、これらの調査を行う。</u></p> <p>二 <u>会計帳簿が事実に基づいて正確に作成されているか、計算書類等が法令に従って作成されているか、その他の会計処理が適正であるか等を調査する。</u></p>

監査役監査基準 新旧対照表

改定監査役監査基準	旧監査役監査基準
<p>(附則)</p> <p><u>本基準において、「記載」には、その性質に反しない限り、電磁的記録を含むものとする。また、本基準において言及される各種書類には、電磁的記録により作成されたものを含むものとする。</u></p>	